

大田区自立支援協議会 第5回地域生活部会議事録

文責：宮嶋委員（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第5回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和元年10月15日（火） 10：00～12：00			
(3) 開催場所	新井宿特別出張所 3階会議室			
(4) 出席した委員、事務局	宮崎 渉	相原 美晃	青山 明子	鶴田 雅英
	宮嶋 祐紀子	山根 聖子	相澤 あゆみ	榎 拓巳
	恵良 幸樹	棧敷 洋子	中野 真弓	新田 美和
	平井 有希子	山崎 訓子	山田 悠平	
	区事務局：福島係長、秋山、西澤、齋藤、親跡			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 各連絡会等の情報提供について 平井委員・鶴田委員：おおたTSネットについて 12月7日の18時から拡大定例会を行う</p> <p>(2) 第4回「地域生活部会」で討議や検討する議題の確認 ア 平成30年度から引き継いだ課題 (ア) 重症心身障がい児・者の地域生活の継続（11月実施予定） (イ) 就労を目指す上で、18歳までに必要な準備と障害児サービスのつなぎ（今回実施） 宮崎委員：一昨年、就労支援部会で18歳から地域で就労していくことについて、それまでの支援やエピソードの引き継ぎ方法のあり方の検討が必要であることが話題になったという経緯の説明。 現状として、昨年、就労支援部会とこども部会の合同部会を開催し、小グループで分かれてきっかけの話の確認をするというところまでとなっている。</p> <p>(各委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなぎ方に関する現状や、「サポートブックかけはし」などのツールを積極的に利用する話などが挙げられた。</li> <li>・日常生活での支援と就労に向けての準備、家庭で行うことができる支援の仕組みの検討が必要ではないか。</li> <li>・親ができることとして、自治体が作成している幼少期からの記録ができるようなツールを活用することも一つだが、関係者が一堂に集まる機会が無い。その旗振り役が居ない場合も多い。</li> <li>・相談支援が入ることでセルフプランでは得られない専門的な視点や長期的にみた相談支援のメリットに関する意見が出された一方、相談支援が入らないとサービスが受けられない当事者もいるなどの現状も示された。セルフプランを検証する仕組みづくりという課題が新たに挙げられた。</li> </ul> <p>(3) 令和元年度第3回運営会議から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自立支援協議会の年度の切れ目を解消する工夫について <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月、4月からスタートできるしくみづくり（1、2月に委員選定？）</li> <li>・24か月で何をするのか考える（まとめは3月）</li> <li>・今年度については“のみ委員”も2年同じ専門部会に参加依頼をするのはどうか</li> <li>・共通認識を持つことを目的とした委員、のみ委員向けの説明会</li> <li>・経過と取り組みが伝える活動報告の会が必要ではないか</li> </ul> </li> <li>■全体合同部会について <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体合同部会を4月に行うことで共通のテーマを確認する等</li> <li>・年度初めに行い全体のイメージを共有する</li> <li>・施策推進会議への意見交換（評価のみだけでなく事業に合わせて）</li> </ul> </li> </ul>			

・ 8050問題など共通テーマの検討

■障がい施策推進会議への対応

- ・ 2月の障がい施策推進会議に向けて、自立支援協議会の専門部会としての全体の意見として集約する必要がある。
- ・それぞれの部会やワーキンググループでの活動を通じて見えてきたことを実際の事業に関連づけ、このように困っている、足りないというように意見を吸い上げていくことが必要だと思う。
- ・ 11月から1月の間で、部会として検討を進めるのはどうか。

(4) 公開勉強会・公開セミナーについて

- ・ 基調講演「地域生活の継続」をテーマにお話いただく。
- ・ 第一部を基調講演とし、第二部をパネルディスカッション（専門部会メンバー等）とする。第二部では地域（大田区内）で暮らす障害者の事例をもとに話を進めるのはどうか。
- ・ 公開勉強会・公開セミナーに向けて、講師と山田委員、山根委員、鶴田委員が打ち合わせ。基調講演の内容の確認を行う。

(5) WGの振り返り

- ・ 発達支援マップの検証：10月9日（水）ゲストスピーカーとして保健師をお招きし、健診の話から就学までの保健師の関わりについて現状をお話いただいた。年間約6,000人の子どもが出生している。周産期救急の有無など地域性の違いもある。出生後の転入者も多い。また、出生前からの関わりについても何うことができた。

○11月作業部会

日時：11月12日（火）10時から11時

会場：さぼーとぴあA棟3階 カンファレンス室

次回部会の役割決めなど

次回、第6回 地域生活部会は

日時：令和元年11月19日（火曜日）10時から12時

場所：さぼーとぴあA棟5階 多目的室